

30年度玉名女子高等学校 学校評価

本校教育の目的

本校は、普通科・ビジネス科・食物科・看護学科の各教育課程を通して、それぞれの分野の基礎・基本はもとより、専門的・職業的知識や技能を修得し、急速に発展している国際化・情報化・高度化社会に遅れることなく、将来の日本が目指している男女共同参画社会に十分対応できる人材の育成を目的とする。

重点努力目標

1. 基礎学力の充実と基本的生活習慣の確立
2. 魅力ある学校づくり
3. 文武両道
4. 人権同和教育の推進と楽しい学校環境づくり

(実現のため教職員間の疎通を図り、チームワークに努め、組織を機能させる)

重点努力目標に対する自己評価総括			
	評価項目	評価	総括
重点目標 1	1 生徒の基礎学力の向上と多様な生徒に対する進路保障	B	生徒の躰きの把握と基礎学力の定着を目指し、学び直しトレーニングの取り組みも6年目となった。狙える層が、国公立推薦や看護・医療系の増加へと向上しており、少しは効果を感じている。生徒一人ひとりに対応する受験指導を主に成果を上げることができた。新しい大学入試制度を視野に入れて、積極的に研修会に参加をし、職員に共有していくとともに、個別の進学指導にも引き続き取り組んでいく。基礎学力向上から、特進コース迎え入れの準備まで、幅広い視野を持って進路保障に取り組む。
	2 基本的生活習慣の確立と安全な生活指導	A	家庭学習の習慣と学習への意欲的な取り組みを身につけさせる。学校行事への積極的な取り組みを通して、有意義な高校生活を送ることが出来ていることは、30年度も高かった出席率からも感じられる。行事に組み込んだ学期ごとの教育相談による心のケアや、生活指導ともしっかりとできた。配慮が必要な生徒への個別の対応は十分と言えないかもしれないが、担任、保健部、専門職者(SC,SSW)等の密な連携にも努めた。熊本時習館構想による特別支援相談員も有効活用できた。今後もしっかり連携していきたいと考える。習慣化した校外指導や交通指導も今後も継続し、問題事象の発生防止に努める。全校生徒の3分の1にもなる寮生の、親元を離れた3年間の生活の中で育てるべき生活習慣も整理し、心身共に安心できる環境作りに努力しなければならない。
重点目標 2	3 魅力ある学校づくりと生徒募集	A	オープンスクールと文化祭の同時開催は大変ではあるが、中学生にとっては、高校生の活動を見ながら楽しく勢いある学校の状況を知ることが出来たと思う。授業体験、部活動体験は十分に実施できた。学校説明会の回数や開催地の拡大に努めたが、参加者増数のためには、実施の伝達(広報活動)に力を入れるべきであった。 30年度は新しい取り組みとして「玉女フェスタ」と題し、大牟田地区にて学科内容や生徒活動を発信できた。学校の魅力のアピール方法など検討しなければならない。新しいアニメデザインコースについては、受験生、入学生ともに増加した。中身の充実にも努めた。女子校らしさを追求した学習環境作りに努める。食物科については、製菓をより多く取り入れたコースを設置したが、内容をさらに検討し伝える努力を怠らない。今後も継続して多様な進路実現の可能性拡大の検討をする。
重点目標 3	4 教師指導力の向上	B	授業力の向上と魅力ある授業づくりのために、28年度から始めた、外部講師を招いての教科指導力向上研修は、国・数・英・理・社・商に加え保健体育も各2回ずつ、有意義な研修を実施できた。授業改善に活かしていく。本校が目指す進路指導のために、先進校視察をするなど、学校外での研修にも積極的に参加を検討したい。また、新しい大学入試制度に対応できるよう、30年度も進路指導部を中心に校内職員研修を実施し、情報の共有に努めた。特進コース1期生入学に向けて、授業改善や指導力向上へのさらなる取り組みが必須である。
	5 文武両道を目指す、学習と部活動の両立	B	学習活動と部活動を両立させ、心身共にバランスのとれた人間の育成に努めた。部活動では、バドミントンなど運動部活動の活躍と、吹奏楽部のマーチング・吹奏楽の全国金賞、ダンス部の地域に根ざしたボランティア活動など、どの部活動も積極的に取り組み、高い評価を受けた。とくに茶道部は玉名市内の3中学校で、出張授業をするなど特筆すべき活動があった。部活動に費やす時間に対して同様に求められる学習時間の確保や学習成績の維持については、バランスがとれるよう今後もしっかり見守り指導していかなければならない。どの部活動についても、競技力の向上のみにとらわれず、怪我のない心身のバランス良い成長のために休養にも留意する。また、教師の働き方改革を視野に入れた部活動指針の作成に着手した。